

# 映画「母と子の絆～カネミ油症の真実」

2024年10月12日(土)全国公開・全国上映会開始

“毒の油”を口にした母はカネミ油症被害者に  
母と子を繋ぐ「へその緒」から毒は子や孫まで



カネミ倉庫(福岡県北九州市)



カネミライスオイル



塩素にきび等カネミ油症被害症状

## 「カネミ油症」とは

1968年(昭和43年)、カネミ倉庫(福岡県北九州市)が製造した食用米ぬか油に混入したPCB(ポリ塩化ビフェニール)から加熱により、ダイオキシン類(PCDF)が生成され、日本最大の食中毒事件が引き起こされた。皮膚疾患(大きなおできや悪臭)、内臓疾患、強い倦怠感など、「病気のデパート」と言われるほど、あらゆる症状が被害者を襲った。しかも単なる食中毒でなかった。

症状は被害者本人の一過性ではなく、毒の油を口にしていない子や孫の次世代にまで被害の連鎖が続いている。「カネミ油症事件」発生から56年の今、なぜ被害者の救済が行われて来なかったことを”告発”する。

## 映画の内容は

◆カネミ油症被害者の苦悩、家族への思い、福岡県、長崎県を始め、全国に広がるカネミ油症被害者の声を聴きます。

◆なぜ「カネミ油症事件は起きたのか?」

原因の究明と歴史的な闘いの検証を行います。当時の映像、新聞報道を検証し、原因加害企業(カネミ倉庫)、原因製造企業(カネカ)の責任、国(厚生労働省)“無為無策”、被害者への補償の“不作為”、九州大学油症治療研究班がどう関わってきたのか? 半世紀を越える歴史的検証を行います。

## 摂南大学名誉教授・宮田秀明氏は語る

1968年に西日本を中心に発生したカネミ油症においては、皮膚、目、肝臓などに長期間の障害をもたらした。その後、被害者は「病気のデパート」と表現されるように、様々な症状によって長期にわたり苦しみが続いた。当初、原因物質は、米ぬか油に混入したポリ塩化ビフェニール(PCB)とみなされた。しかし、被害者に発現した症状は、PCBだけでは説明づけられるものではなかった。小生は、カネミ油症発生5年後(1973年)に油症の原因究明に取りかかった。12年もの実に長い期間を要したが、原因物質はPCBではなく、強毒性のダイオキシン類であること突き止めた。

カネミ油症は、14,000人も多くの人々に被害をもたらした世界で初めてのダイオキシン類による食品公害事件である。しかし、油症被害者としての認定者数は、2022年末でわずかに2,367人に過ぎない。大半の人は被害者として認定されていない。

ダイオキシン類は、人体内で代謝・排泄がされにくく、長期間にわたって体内で汚染影響が持続する。そのため、油症原因油を直接摂取した被害者だけでなく、子や孫にも汚染影響が及ぶことが明らかになっている。

◆撮影・監督・プロデュース: 稲塚秀孝(タキオンジャパン)

◆プロデューサー: 藤原寿和 日台油症情報センター長

◆製作・配給: タキオンジャパン

## 映画「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作委員会

《製作委員会事務局》藤原寿和 080-4868-7388 fujiwara.t2015@gmail.com

ホームページ: <https://hahatokonokizuna.co>



# へそのお 臍の糸 プロジェクト



## ◆へその緒プロジェクトの展開

2023年12月「へその緒プロジェクト」を立ち上げ、「母と子の絆～カネミ油症の真実」の中で紹介・提案いたします。

母から胎盤を通して胎児のへそ…ダイオキシン類の毒性が移行する、「胎児性カネミ油症病」という新たな検証を得て、カネミ油症被害者の救済の扉を開きます。

この映画をご覧になって、「カネミ油症事件」を知り、関心を持って、被害者の方々に寄り添っていただきたいと思います。

「へその緒プロジェクト」代表世話人の宮田秀明摂南大学名誉教授は、

1. 胎児は環境汚染物質に対する感受性が一般成人よりも10倍高い
2. カネミ油症事件の原因物質である残留性の強いダイオキシン類は、原因油を直接摂取した当事者だけでなく、次世代(子や孫)に有毒性を及ぼす
3. 胎児の汚染実態を究明することが重要

「へその緒(保存さい帯)」は、新生児(胎児)の出生時における汚染実態を把握するための最適な試料である。へその緒の原因物質濃度は、出産時点で母親から新生児の体内に移行する原因物質濃度を反映している。



1月12日の記者懇談会

### 【日本内分泌攪乱物質学会 会長 鯉淵典之】

本映画は、カネミ油症被害者および子孫を含めた幅広い被害関連者について、汚染実態を克明に記録したものであり、今後の未認定被害者と関連被害者の救済、および油症実態の究明に大きく寄与するものと確信する。環境中の化学物質の毒性についての研究が活発になったのは日本では1990年台後半になります。その後、PCB・ダイオキシン類を始めとする有機化合物の測定法が開発・改善され、体内の汚染や胎児への移行、毒性発現のメカニズムなどが明らかになってきました。カネミ油症が問題になったのは1960年台後半ですので、当時の技術ではわからなかったことが多く、それが被害者認定の遅れにつながってしまったのではないかと思います。現在の測定技術を駆使し、明らかとなった毒性をもとにカネミ油症の検証を行うことは、被害を受けた方の救済はもちろんのこと、今後の環境化学物質の毒性研究にも大きく貢献することが期待できます。

### 【グリーンコープ生活協同組合連合会】

いのちを育む源である「食べもの」によって健康といのちが損なわれるということがあってはいけなし、繰り返してはいけない、という母親たちによってグリーンコープ生協は誕生しました。繰り返さないためには、カネミ油症の真実を知り、歴史を学ぶことが必要です。この映画によって未来をより良くしていく力につなげたいと考えます。



◆ 「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作委員会では、映画製作のための支援をお願いしています。

【支援金の振込先】 ゆうちょ銀行 店番138(イチサンハチ) 口座番号 2302351 口座名 イナヅカ ヒデタカ

問合せ先は、製作委員会 稲塚秀孝宛 090-3433-6644 inazuka@takionjapan.onamae.jp